資料８

震災津波伝承施設における展示の基本的な考え方（案）

（第１回　高田松原津波復興祈念公園震災津波伝承施設検討委員会　資料）

平成２７年９月４日

1. 震災津波伝承の基本的な考え方

※ 出典:『震災津波伝承のあり方』より

1 震災津波伝承のコンセプト

追悼・鎮魂の思いとともに、震災津波の教訓と育まれた絆の大切さを伝え、防災意識を高める

2 「伝承のあり方」の方向性

【伝 承】

震災津波の恐ろしさ・
いのちの尊さを伝承

【学 習】

防災減災の知識、復興していく姿を学習

【コミュニティ】

失われた景観・まちなみ、歴史文化を伝える

【交流・観光】

三陸沿岸地域への誘い、交流促進

3 震災津波伝承において重視する視点

参 画	地域住民の幅広い参画により伝承の取組みを促進する施設。
つながり	多様な個人、団体、機関等の連携・活動を活性化するとともに、復興へ向けての多様な"絆"を育む施設。
持続性	将来にわたって、地域資源を活かした伝承の取組みや持続的な運営が可能な施設。

4 対象

地域・県内	地域のみならず、県内、国内、そして世界の人々を対象とする。
国内・世界	直接・間接に震災を体験した世代の人々はもちろんのこと、年々増えていく震災を知らない世代を積極的に誘致する。

2. 震災津波伝承事業の全体像

■ 震災津波伝承のあり方の方向性

【伝 承】 【学 習】 【コミュニティ】 【交流・観光】

■ 震災津波伝承事業の全体像

遺構や実物資料、実写映像等「本物を通じた学び」を提供するミュージアム事業と、県民参加を原動力とするプログラム事業を展開。

ミュージアム事業

ガイダンス機能を担う屋内展示と被災現場に身を置きながら学んでもらう屋外展示（フィールド・震災遺構）を統合・整備する。東日本大震災の実情と教訓を世界、そして未来へと伝承する場を創出。

展示学習施設

日本を代表する震災津波の伝承・学習拠点として

・将来の震災から命を守るための学習の場を提供。
・起きた事実、行動の事実、復興の歩みを伝える。
・震災津波の経験から学んだ教訓を伝える。

被災地域のコミュニティの歩みを記憶する装置として

・失われた故郷の姿、連綿と続いてきた営みを記憶し、後世に継承。
・三陸地域の震災津波災害の歴史、育まれた防災文化について紹介。

公園・町・三陸各地へと誘うゲートウェイとして

・公園、新市街地、（仮称）一本松記念館等を紹介し、地域への回遊性を醸成。
・県内被災地の復興状況を伝えるとともに、各地の震災遺構やメモリアル施設へと人々を誘う。
・各地域の観光も提供。

フィールド・震災遺構

震災遺構の保存・活用

・震災遺構を見学可能な状態に整備する。
・震災遺構が点在する公園全体をアピールし、震災遺構見学の活性化を図る。
・いながらにして学ぶことができるIT等を活用した解説システムの構築を検討。

震災前の町の記憶・新市街の眺望に出会える場を整備

・かつての町割りの跡など、震災前の町の記憶に出会える場を整備する。
・IT等を活用した解説システムの構築を検討。

プログラム事業

県民・NPO・関連機関と多彩に連携し、活発な震災学習交流を展開。

各種プログラムの開発と実施

・語り部活動やガイドツアーなど、展示学習施設やフィールド・震災遺構を活用した各種プログラムを開発・実施。

震災伝承ネットワークの形成

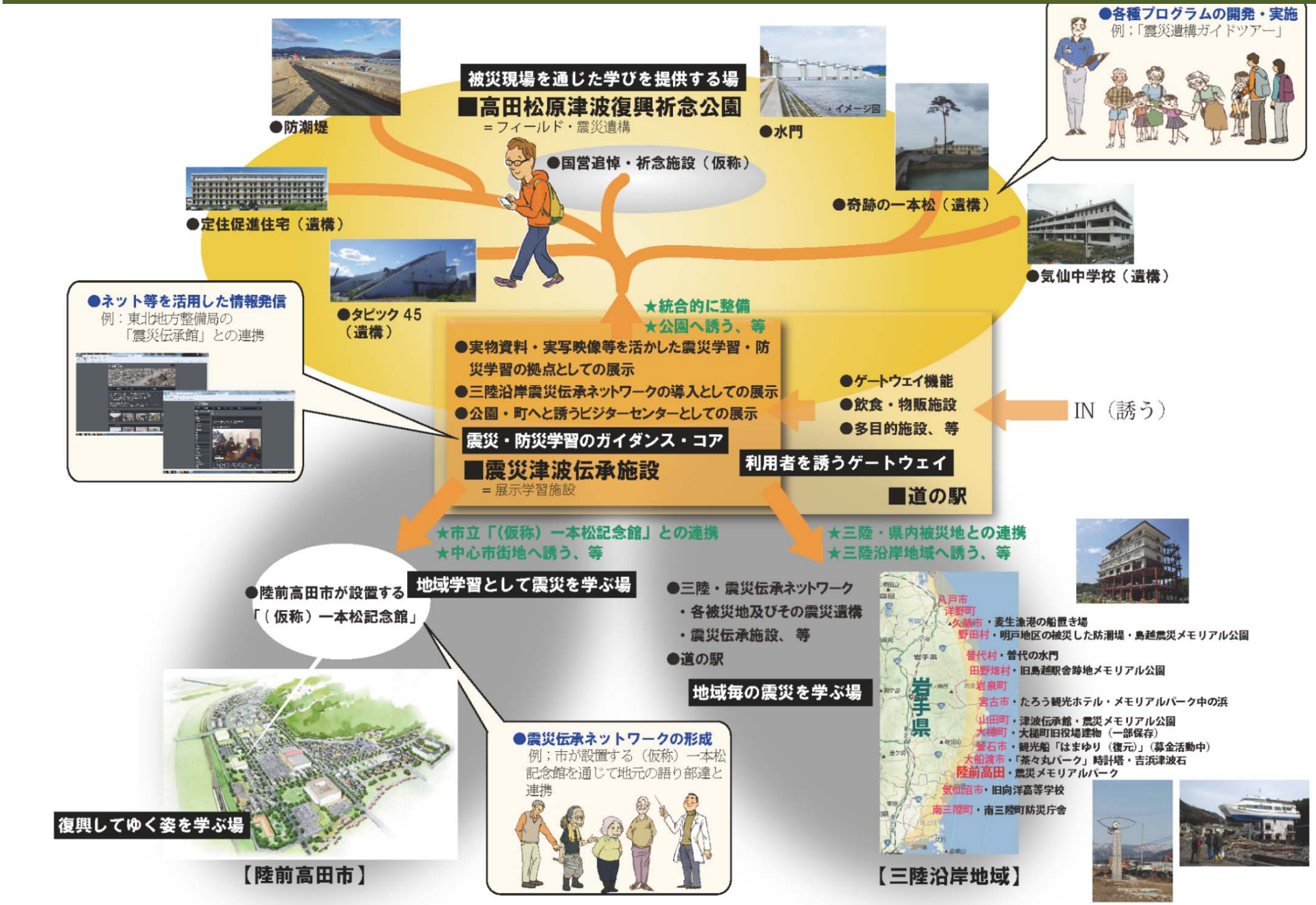
・三陸沿岸地域に設置される震災伝承施設等との連携体制を構築し、共通パンフレットの作成など、協働事業を推進。
・震災学習交流の担い手となる、県民やNPO、研究機関等とのネットワークづくりを推進。

ネット等を活用した情報提供

・ホームページ等を活用した情報発信を行う。
・東北地方整備局がホームページ等において運営している「震災伝承館」、「ガイド東北」等や、三陸地域の道の駅と連携した情報活動も検討。

3. 震災津波伝承事業の全体イメージ

※ 出典:『高田松原津波復興祈念公園基本計画』p24より



注：保存が決定しているもの、検討中のものを含みます

4. 震災津波伝承施設の展示に求められる5つのテーマ

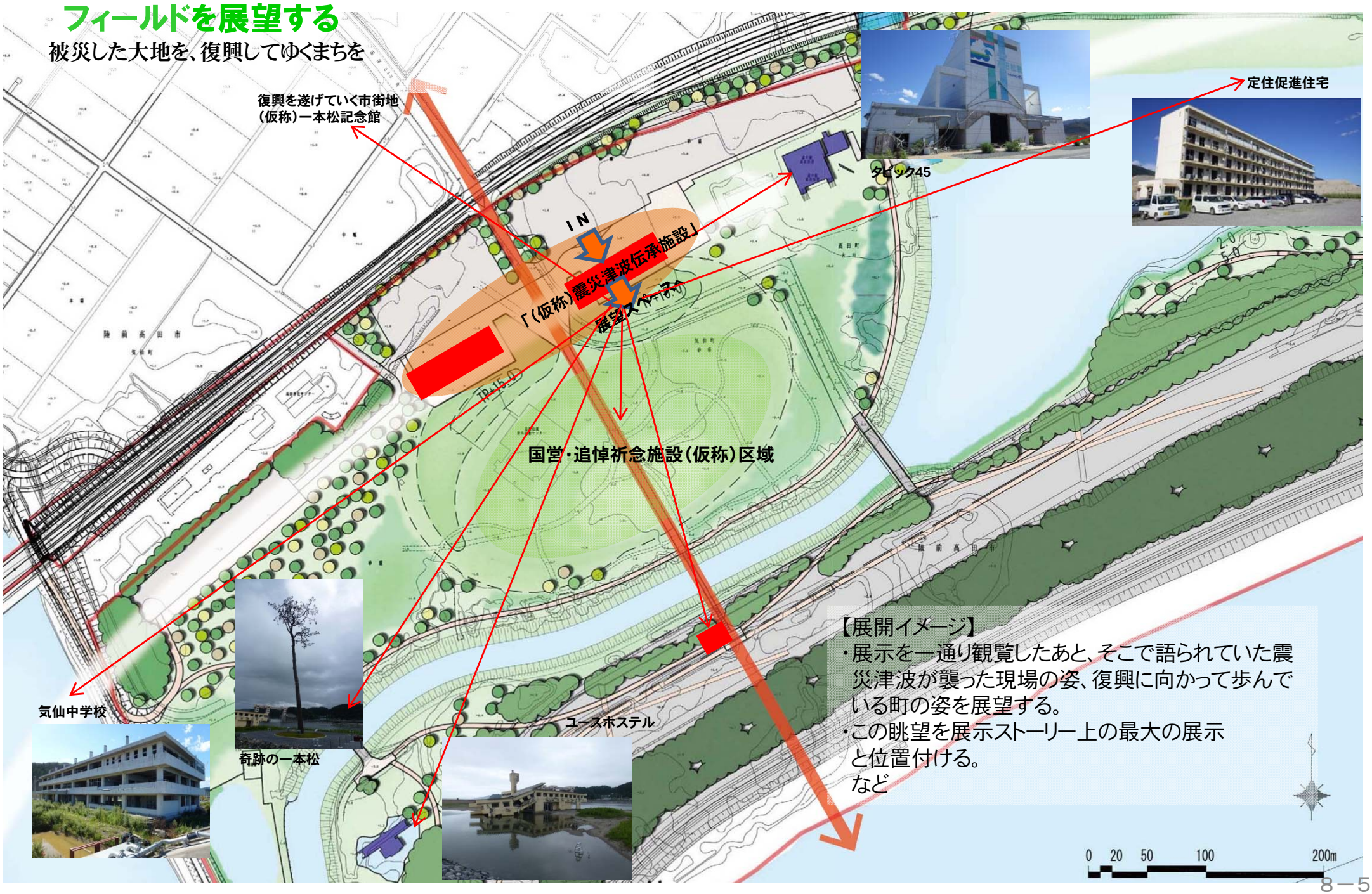
・震災前の故郷の姿、くらしの風景、そこに育まれた文化等を記憶し、かつてそこにあった営みを後世に伝える。

・東日本大震災で、県内各地で何が起こったのか、その事実を伝える。
・科学的な視点も交えながら、震災・津波の脅威を浮き彫りにする。
・各地の被災状況を伝える。

・未曾有の大災害に際して人々が何を考え、どう行動したのかを伝える。
・この悲惨な体験から学んだ教訓を伝える。
・三陸地域をはじめ国内の過去の津波災害や津波防災文化についても紹介する。

・人々が復興に向けて抱いた意志や希望を伝える。
・各被災地の復興へ向けての歩みをたどる。
・復興に向けての支援やボランティア活動などを通じた新たな絆づくりに貢献する。

・三陸沿岸地域への回遊を促すゲートウェイとして、各地の震災伝承関連施設や三陸ジオパークに加え、各地の物産・観光についての情報提供を行う。


フィールドを展望する
被災した大地を、復興してゆくまちを
復興を遂げていく市街地
（仮称）一本松記念館
定住促進住宅
タピック45
IN
「（仮称）震災津波伝承施設」
展望スペース
国営・追悼祈念施設（仮称）区域
気仙中学校
奇跡の一本松
ユースホステル
【展開イメージ】
・展示を一通り観覧したあと、そこで語られていた震災津波が襲った現場の姿、復興に向かって歩んでいる町の姿を展望する。
・この眺望を展示ストーリー上の最大の展示と位置付ける。
など
0 20 50 100 200m